

科目名	動作分析学						
科目名(英)	Motion analysis						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な運動・姿勢・動作を機器を用いて理解する。 2. 運動学・臨床運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める。 3. 何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々な機器を用い分析する。 4. 分析結果より問題点を理解する。 5. 分析することの楽しさを学ぶ。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			運動学・臨床運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深めることができる	
	○	○	○			何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々な機器を用い分析できる	
	○	○	○			正常な運動・姿勢・動作を機器を用いて理解できる	
	○	○				分析結果より問題点を理解することができる	
	○	○				分析することの楽しさを学ぶ	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1) Gots-Neumann著: 観察による歩行分析. 医学書院, 2007. 2) 石井慎一郎: 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践. メジカルビュー社, 2013. 参考文献: 1) 中村隆一: 基礎運動学第6版. 医歯薬出版株式会社, 2003. 2) 嶋田智明・平田総一郎著: 筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版株式会社, 2000.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 動作分析とは?①			教科書の予習をしておく。		
	2	動作分析とは?②			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	力学について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	動作解析①(床反力計)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	動作解析②(三次元動作解析計)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	筋について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	筋電図①(筋電図とは)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	筋電図②(筋電計測の仕方)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	研究①(実験立案)			教科書の予習をしておく。		
	10	研究②(実験計測)			教科書の予習をしておく。		
	11	研究③(実験データ解析)			教科書の予習をしておく。		
	12	研究発表会① * 1(1・2・3班発表)			教科書などで知識の予習をしておく。		
	13	研究発表会② * 1(4・5・6班発表)			教科書などで知識の予習をしておく。		
	14	研究発表会まとめ			研究発表のまとめを行うので、各班の発表の振り返りをしておくこと		
15	総まとめ			これまでの授業内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)実習レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	実習レポート	◎	◎	○	○		10%
履修上の注意	* 1 発表は1班20分程度を予定しています。各班ごとに行います。質疑応答は無制限。						

科目名	運動療法学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	山下 慶三		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	本科目は、理学療法の治療学でもある運動療法の基礎的な知識、技術を習得する科目である。関節可動域制限に対する理解から改善のための理学療法実践、筋力低下に対するプログラムの実践を含め、基本的な運動療法技術と理論について学んでいく。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動療法の概念・治療構造・根拠を理解し説明できる。	
	○	○	○			関節可動域制限とその治療法について理解し実践できる。	
	○	○	○			筋力低下とその治療法について理解し実践できる。	
	○	○				検査結果の解釈から基本的な治療を実践できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・市橋則明:運動療法学 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂 ・月城慶一:観察による歩行分析. 医学書院 千住秀明:機能障害科学入門. 神稜文庫 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動療法概論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	関節運動学:関節可動域制限とその治療			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	関節可動域運動の実際(他動的関節可動域運動)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	関節可動域運動の実際(伸張運動):下肢			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	関節可動域運動の実際(伸張運動):上肢・体幹			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	関節可動域運動の実際(関節モビライゼーション):総論・上肢			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	関節可動域運動の実際(関節モビライゼーション):下肢			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	筋力低下と理学療法(総論)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	筋力低下と異常歩行① 大殿筋・中殿筋・大腿四頭筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	筋力低下と異常歩行② 前脛骨筋・下腿三頭筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	検査結果の解釈(関節可動域制限・筋力低下)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	神経筋再教育(総論・考え方・PNF法紹介)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	神経筋再教育(PNF法 紹介)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	運動学習の考え方と理学療法での活用			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)各単元のまとめとして小テストを実施する。 (2)定期試験(実技、筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技、筆記)	○	◎	◎			80%
	小テスト		◎				20%
履修上の注意							

科目名	物理療法学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	仲吉 功治		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	1.物理療法の種類、定義、目的の説明ができる。2.各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。3.各物理療法機器の取り扱い、リスク管理ができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法における物理療法の位置づけ、歴史的発展過程を説明できる。	
	○	○				物理療法の適応の多い病態を理解し、発生メカニズムを説明できる。	
	○	○				各物理療法の種類、定義、目的、生理学的作用が説明できる。	
	○	○		○		各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できるようになる。	
○	○		○		疾患に合わせた物理療法機器の選択ができ、その思考過程を説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:千住秀明監修 沖田実編集 :理学療法テキストⅩ 物理療法 第2版. 神陵文庫,2009 参考文献:1)石川 朗: 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 2)Michelle H. Cameron編著:EBM物理療法原著第4版. 医歯薬出版株式会社,2015						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	物理療法導入ーオリエンテーション、物理療法体験ー物理療法ってなんだろう?患者様の気持ちになって考えてみよう			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	物理療法総論ー物理療法に必要な生理学、主な病態の理解①ー炎症・疼痛を中心に			小テストの復習 該当の生理学の内容を復習しておくこと		
	3	主な病態の理解②ー炎症・疼痛を中心に			小テストの復習 該当の生理学の内容を復習しておくこと		
	4	温熱療法①講義(ホットパック、パラフィン) 温熱療法①実技(ホットパック、パラフィン)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	温熱療法②講義(超音波、超短波、極超短波) 温熱療法②実技(超音波、超短波、極超短波)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	寒冷療法講義 寒冷療法実技(コールドパック・アイスマッサージ)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	牽引療法講義 牽引療法実技(頸椎・腰椎間欠牽引)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	牽引療法実技(頸椎・腰椎間欠牽引) 水治療法講義			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	水治療法実技(渦流浴、気泡浴、全身浴、アクアサイザー)			授業資料を復習し、実技に望むこと		
	10	電気療法講義(TES、TENS、FES、電気診断法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	電気療法実技(TES、TENS、FES、電気診断法)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	光線療法講義(赤外線、紫外線、レーザー) 光線療法実技(赤外線、紫外線、レーザー)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	疾患別物理療法			これまでの授業内容を復習しておくこと		
	14	OSCE			これまでの授業内容を復習しておくこと		
15	まとめ			これまでの授業内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	小テスト	◎	◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	日常生活活動学Ⅱ						
科目名(英)	Daily life activities						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	1. 日常生活におけるセルフケアの役割について理解する 2. 日常生活を支援する機器について理解する 3. 疾患別日常生活の障害について理解する 4. 日常性活動訓練について理解する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活におけるセルフケアの役割について説明できる。	
	○	○				日常生活を支援する機器について説明できる。	
	○	○				疾患別日常生活の障害について説明できる。	
	○	○		○		症例における日常性活動訓練について説明できる。	
	○	○		○		症例における日常生活におけるセルフケア・支援する機器について指導できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ADL概要			教科書の予習をしておく。		
	2	ADL概要			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	セルフケア動作と支援機器①			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	セルフケア動作と支援機器②			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	疾患別セルフケア① 中枢神経障害(片麻痺)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	疾患別セルフケア② 中枢神経障害(片麻痺)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	疾患別セルフケア③ パーキンソン病			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	疾患別セルフケア④ 脊髄損傷			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	疾患別セルフケア⑤ 関節リウマチ			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	疾患別セルフケア⑥ 下肢骨関節障害(変形性股関節症・膝関節症)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	実習:たたらリハビリテーション病院予定			授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	実習:たたらリハビリテーション病院予定			授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	日常生活活動訓練 実習のまとめ			授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	日常生活活動訓練 授業まとめ			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	総まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	義肢装具学						
科目名(英)	Prosthetics and orthotics science						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	宇戸 友樹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	1.リハビリテーションにおける義肢装具の重要性と役割について理解する 2.義肢装具の種類・目的・構造について理解する 3.装具の疾患に対する適応・活用方法を理解する 4.装具作製の経験により作製の過程と構造の理解を深める						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				リハビリテーションにおける義肢・装具の目的と役割について説明できる。	
	○	○				装具の種類とその目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
	○	○				疾患別に必要な装具を目的とその方法について説明できる。	
	○	○				義肢の種類と目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
	○	○				作製演習を通して、作製過程を学び義肢装具士との協力について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)義肢装具学テキスト改訂第3版:細田多穂監修. 南江堂 2)義肢装具のチェックポイント第8版:日整外学会・日本リハ医学会. 医学書院 参考文献:講義内で随時案内します。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	義肢学・装具学総論(義肢とは…、装具とは…、装具と理学療法士との関わり) 整形靴(靴の構造・役割)				教科書の予習しておく。	
	2	下肢装具(総論:装具体験) 下肢装具(総論:構造と種類)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	下肢装具(長下肢装具:構造とバイオメカニクス)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	下肢装具(実習:下肢装具チェックアウト)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	下肢装具(実習:疾患別適応)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	整形靴(靴の補正・種類と適応)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	装具製作実習				授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	装具製作実習				授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	体幹装具(総論) 体幹装具(頸装具の種類と疾患別適応)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	体幹装具(胸腰椎装具の種類と疾患別適応) 体幹装具(側彎症装具の構造とバイオメカニクス)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	上肢装具(総論) 上肢装具(種類と適応・末梢神経損傷)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	上肢装具(種類と適応・末梢神経損傷) 上肢装具(まとめ)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	義肢学:外部講師				授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	義足と異常歩行				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	◎	◎				10%
履修上の注意							

科目名	内部障害 I						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	花田 穂積		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	1.呼吸の解剖と換気・ガス交換について説明ができる。 2.代表的な呼吸器疾患の発生機序と病態が説明できる。 3.呼吸機能の評価、治療の実際を理解する。 4.糖尿病の合併症について理解する。5.リスク管理ができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において呼吸器疾患、糖尿病疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				呼吸器理学療法の実施過程を説明することができる。	
○	○		○			チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	彦:リハビリテーション医学講座17巻.循環器・呼吸器疾患.医歯薬出版株式会社 2)奈良勲.鎌倉知子監修:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学.医学書院 3)黒澤一,佐野裕子:呼吸リハビリテーション.学研						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	呼吸理学療法総論			生理学・内科学を予習しておくこと。		
	2	呼吸運動のメカニズム、呼吸に関する筋、肺の解剖と生理			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。		
	3	呼吸機能の評価(肺機能検査実技)呼吸不全の種類、COPD			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。		
	4	SpO2とPaO2、酸素解離曲線 換気とガス交換、酸塩基平衡について			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。		
	5	異常呼吸音、画像所見の見方 フィジカルアセスメント(聴診)について			授業資料を確実に復習しておくこと。教科書で様々なX線、CT画像の確認をしておく。		
	6	呼吸不全とは、代表的な呼吸器疾患の病態について 急性呼吸不全と慢性呼吸不全			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)教科書で様々な疾患の特徴を確認をしておく。		
	7	呼吸理学療法評価実践(6MWT、SWT、FRT、TUG、スパイロ、胸郭周径など)			授業資料を確実に復習しておくこと。評価学、生理学のテキストを参考にする。		
	8	運動処方について(THRなど) METs、厚労省エクサイズ表			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)運動生理学を復習しておくこと。		
	9	酸素療法(在宅酸素について) AaDO2の求め方、CO2ナルコーシスについて			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)		
	10	小テスト			国家試験形式(授業資料の復習)記述式(小テストの復習)		
	11	呼吸理学療法評価のまとめ、呼吸理学療法治療実践①(体位ドレナージ)呼吸理学療法治療実践②(介助呼吸法)			授業資料を確実に復習しておくこと。		
	12	急性期呼吸②(人工呼吸器について)呼吸理学療法治療実践③(排痰法)			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)		
	13	糖尿病 代謝			授業資料を確実に復習しておくこと。内科学の復習も兼ねておくこと。		
	14	糖尿病 代謝			授業資料を確実に復習しておくこと。内科学の復習も兼ねておくこと。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを10回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		△		20%
履修上の注意							

科目名	地域理学療法学						
科目名(英)	Community based physical therapy						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	熊丸 真理		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	①地域リハビリテーション及び地域理学療法とは何か理解する。②地域リハビリテーションの社会制度・社会資源を理解する。③様々な分野での地域理学療法について理解する。④地域理学療法の実際について展開できる事例を通し様々な場面での地域理学療法を展開する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域リハビリテーションの概念、地域理学療法の概念を理解する。	
	○	○				地域理学療法の対象者及び関連する社会制度、社会資源を理解する。	
	○	○				地域での理学療法士の働き方、実際の理学療法の展開を理解する。	
	○	○				事例検討を通じてリハビリテーション実施報告書を作成し、理学療法アプローチを立案する。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:浅川育世編:ビジュアルレクチャー地域理学療法学. 医歯薬出版株式会社, 2012						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	地域理学療法学オリエンテーション、地域リハビリテーションの概要			予習として教科書第1章を読んでおく。		
	2	地域リハビリテーションに必要な社会制度・社会資源の理解			講義内容の復習をしておく。		
	3	地域理学療法の概要、グループワーク準備			講義内容の復習をしておく。		
	4	グループワーク			グループワークを実施して発表できる形式にする。		
	5	地域理学療法の実際(介護保険通所系サービス)グループ発表			今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習をしておく。		
	6	地域理学療法の実際(介護保険入所系サービス)グループ発表			今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習をしておく。		
	7	地域理学療法の実際(障害者サービス)グループ発表			今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習をしておく。		
	8	地域理学療法の実際(介護保険訪問系サービス)グループ発表			今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習をしておく。		
	9	地域理学療法の実際(終末期ケア)グループ発表			今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習をしておく。		
	10	地域理学療法の実際(地域包括ケアシステム)グループ発表			今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習をしておく。		
	11	地域理学療法の展開1			外来講師の講義をレポートにまとめる。		
	12	地域理学療法の展開2			外来講師の講義をレポートにまとめる。		
	13	地域理学療法の展開3			外来講師の講義をレポートにまとめる。		
	14	事例検討			事例検討内容の復習をしておく。		
15	まとめ			今までの総復習をする。			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	レポート	◎	◎		○		20%
履修上の注意	グループワーク、レポート提出課題が多くあります。						